Elytra, Tokyo, **17** (1): 94, May 15, 1989

新 刊 紹 介

「動物分類学入門」佐々治寛之著，UP Biology, 74. vi+124 ページ；1989年1月25日発行，東京大学出版会．1,400 円．

「種とは何か，種と種の関係はどのように決められるのか，系統とは何か，といった分類学の意義と方法論の原理が，豊富な例をひいて平易に解説される．生物学を志すすべての人に，基礎となる1冊」，本書の宣伝コピーをそのまま引用してしまったが，内容はまさにそのとおり，手もとに置いておくと便利な小冊子である．本誌で著者の佐々治博士を紹介する必要はないと思うが，30年近く福井大学で教鞭をとられた著者が，もっとも必要と感じていた教科書を自分で作ってしまった，といったところだろうか．

構成は次の7章から成り立っている．1) 分類学の成立と発展；2) 種の概念；3) 分類学的形質とその評価；4) 系統進化と分類体系；5) 種分化；6) 学名；7) 分類・同定の実践．

本書は大学で生物学を専攻する学生を対象として書かれているが，実例はほとんど昆虫を材料とし，われわれにはなじみのあるものが登場してくるので親しみやすいし，著者の専門とするテントウムシ類は，さすがといった感じで，なかなか読ませる．ただ，種の概念の章で，命名規約上の「種」を解説しているが，純粋にテクニカルなこの問題をこの章で扱うと，命名という行為が生物学と遊離している，という誤解を生じないかと危惧される．あとに学名の章があるのだから，そこで解説したほうがよかったのではなかろうか．しかし，問題提起として，わざと第2章にもっていったのかもしれない．そのへんのところは一度，著者に確かめてみたいと思っている．

ところで，内容とは関係ないのだが，本書を紹介しようとして引用でたいへん困ったことがあった．タイトルの「動物分類学入門」はもちろん問題ない．それに，“UP Biology”というシリーズ名があり，番号もついている．ところがこの番号が，本書のカバー，表紙，扉，奥付などにまったく出てこないのは，どうしたことだろうか．本の末尾に「UP バイオロジーシリーズ」として，既刊のタイトルと著者の表があり，これでやっと番号を知ることができた．また，いわゆる『腰巻』の部分のリストにも番号が出ているが，これで引用するのは無理である．それに，「UP Biology」，「UP バイオロジー」，「UP バイオロジーシリーズ」の表記が見られて，どれを採用してよいかわからないし，番号も『巻』なのか『号』なのかはっきりしない．『腰巻』に『巻』とあったので，とりあえずは『巻』を使えそうだが，これはやはり『号』の方がよいと思うし，「UP Biology」と英語表記なら『No.』であろう．なお，蛇足であるが，東京大学出版会へ送る『読者カード』には，「UP バイオロジー 74」となっていた．ここまでくると勝手にしろといいたくなる．

(大和田　守)